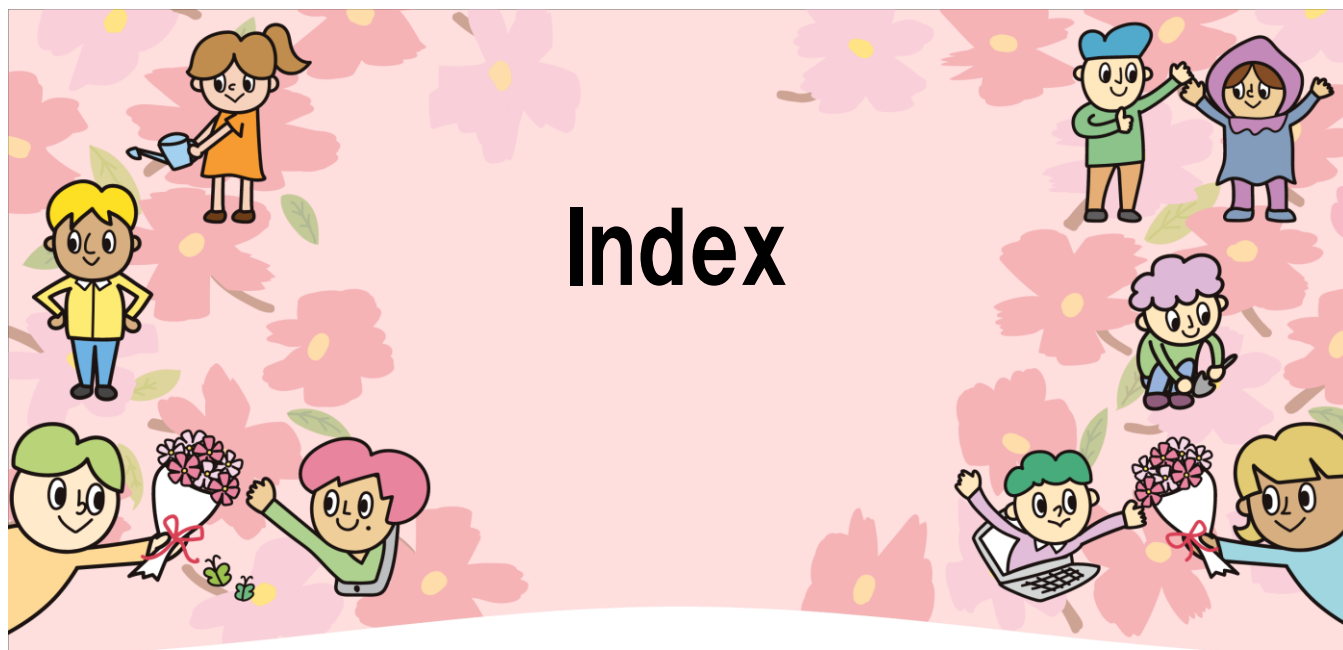


実施報告書



開催日 2022年12月18日
作成日 2023年1月



事業について	4
開催結果	5
高校生実行委員会	6
高校生実行委員の活動	6-7
高校生実行委員企画プログラム	8-11
SDGsアクションプランコンテスト	12
ユースのための国際交流×オンラインスタディツアー報告会	12
NGO等企画プログラム	13
高校生実行委員からの声	14-15
参加者からの声	16
当日ボランティア高校生からの声	16
会場アンケート	17
クラウドファンディング	18
ご協賛いただいた皆様	18
運営について	19
資料	19

ワンフェスユースとは 日本最大級の高校生による 国際協力・SDGs・多文化共生 フェスティバル

日ごろさまざまな視点から取り組まれている、国際協力・SDGs・多文化共生という分野。
その社会課題について知るだけでなく、解決に向けて何かアクションを起こしたいという若者が増えています。
ワン・ワールド・フェスティバル for Youth(ワンフェスユース)は、そんなユースのための国際協力フェスティバルです。



事業の背景

グローバル化が進み相互依存が深まる今日、私たちの生活は国境を越えて人々の生命や生活に深刻な影響を及ぼしています。貧困・飢餓・環境破壊・自然災害・感染症・紛争などの問題は、もはや国際的な課題となっています。そのなかで、早い段階から国際的な視野を持ち、世界が抱える課題に向き合い、柔軟で斬新な発想をもって解決に向けて行動を起こす仲間の育成が求められています。

すでに、国際理解教育が取り入れられている高校もありますが、学習の成果や研究課題について発表し学習内容を共有できるような横断的なイベントは全国的にも見られません。同時に、高校生と国際協力分野に携わる様々なセクター（外務省、JICA、企業、自治体、教育機関、NGOなど）をつなげ、情報共有や情報交換の場を若い世代に提供することも重要な課題だと考えています。



事業の目的

- 1) 世界的な視野を持ち、社会課題の解決のために行動する次世代（ユース）の育成
- 2) SDGs達成の重要なアクターであるユースと国際協力分野のネットワークの強化および連携の促進
- 3) 「子どもの権利条約」の理解向上と子どもの権利を尊重した運営の実践

これからの将来、より充実した国際協力活動を展開するためには、若い世代の理解と参加が必要不可欠です。各セクターの連携や協働も、ますます重要な課題となります。ワンフェスユースを通じて、高校生という時期から世界的な視野で社会課題を分析する力を育てることで、国際協力への理解と参加を促します。また、高校生など若い世代を中心とした意見交換・情報交換・発表の機会をつくり、国際協力やSDGsの推進に関わる様々なつながる場を通じて社会全体のエンパワーメントにつなげます。

さらにワンフェスユースでは、生きる権利、育つ権利、守られる権利、参加する権利で構成された「子どもの権利条約」に基づいたイベント運営を行い、その権利が尊重される社会を目指しています。



事業の成果

高校生実行委員に参加し、
企画運営に深く携わった高校生の人数
(2014年～2022年度)

延べ **181名**

ワンフェスユース参加者累計
(2014年～2022年度)

延べ **3万3300名** 以上



開催結果



興味の種から花束を

▲2022年開催スローガン

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2022 ～私たちが描く持続可能な社会の未来図～

2022年12月18日（日）ワンフェスユース2022を開催いたしました。今年度は8名の高校生実行委員が8月から準備を進めました。多くの高校生に、自身の関心外の社会問題にも興味を持つきっかけを提供したいという思いで、「興味の種から花束を」というスローガンを掲げ、難民、貧困、核問題、ジェンダーなど様々なテーマでプログラムを企画しました。

また、会場とオンラインのハイブリッド形式で開催いたしました。会場では熱心にメモを取りながらプログラムに参加する高校生の姿がみられ、オンラインでは、神奈川県や山形県からの参加もあり、全国規模で高校生に参加してもらうことができました。NGOスタッフと直接交流する機会にもなり、ユースと国際協力分野のネットワーク構築にも繋がりました。

開催日時	2022年12月18日（日） 9:30～17:00
開催形式	対面とオンラインのハイブリッド開催 大阪YMCA 大阪市西区土佐堀1-5-6 ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2022 特設会場
主催	ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 運営委員会 特定非営利活動法人 関西NGO協議会
協力	公益財団法人大阪YMCA、持続可能な社会にむけたジャパンユースプラットフォーム（JYPS）、ワンフェスユースOV会、ワンフェスユース高校生実行委員会
後援	外務省、文部科学省、JICA 関西、ESD活動支援センター、近畿地方ESD活動支援センター、大阪府国際交流財団、大阪府教育委員会、開発教育協会（DEAR）、朝日新聞社、SDGsプラットフォーム
協賛	近畿労働金庫、真如苑、リタワークス株式会社、コングラント株式会社、一般社団法人EIGC、日本労働組合総連合会大阪府連合会（連合大阪）、株式会社オルタナティブツアー
補助金・助成金	外務省NGO事業補助金、独立行政法人環境再生保全機構（ユース提言セクション）、公益財団法人関西・大阪21世紀協会（ユースのための国際交流×オンラインスタディツアー報告会）、一般財団法人日本国際協力システム
指定寄付	近畿ろうきん・社会貢献預金（笑顔プラス）
参加人数	延べ 1300名 （会場・オンライン参加含む）
参加高校数	28校 近畿エリアを中心に、神奈川県や山形県からも参加あり
ボランティア	イベント運営ボランティア高校生 6名、当日ボランティア高校生 35名が参加
プログラム	高校生実行委員・NGOなどが企画した13プログラムを実施 NGOブース 9団体出展
運営事務局	特定非営利活動法人 関西NGO協議会

高校生実行委員会

関西・関東の高校から計8名の高校生が実行委員として活動しました

高校生実行委員会とは、プログラム企画から当日の運営までを担う高校生たちのことで、ワンフェスユースにおいて核となる存在です。

今年の実行委員の特徴は、それぞれの興味分野が多岐にわたっていたことです。実行委員同士の話し合いでも、互いに知らない問題に出会う場面があったことから、「参加者にも興味の幅を広げて帰ってもらいたい」という思いが生まれました。その思いが、本年のスローガン「興味の種から花束を」に繋がっています。さらに、その興味やアイデアを最大限活かすため、従来の枠組みにとらわれない形でプログラムづくりに挑戦しました。



▼高校生実行委員のイラスト

今年度は3年ぶりの対面開催、また、初のハイブリッド開催でしたが、実行委員の頑張りにより、無事当日を終えることができました。

実行委員のもとでプログラムの企画・運営に携わる「運営ボランティア」、そして、当日のイベント運営を補助する「当日ボランティア」も高校生が担いました。合計41人のボランティア高校生が集まり、ワンフェスユース2022の円滑な運営を支えてくれました。

高校生実行委員の活動（2022年8月～2023年1月）

Aug

- 2022年度の高校生実行委員が決定！
- 8月7日 第1回高校生実行委員会の開催
 - ・実行委員の活動開始
 - ・アイスブレイクなどでのチームビルディング
- 8月21日 第2回高校生実行委員会
 - ・プログラムの方向性の決定
 - ・Summer SDGs Festival for Youthへ参加し、NGOと交流



- 9月18日 第3回高校生実行委員会
 - ・各プログラムの担当を決定（プログラム①、②、ユース提言）
 - ・実行委員の関心のあるテーマの共有
 - ・2022年開催スローガンについての話し合い
 - ・ビジュアルイメージの決定

Sep



Oct

- クラウドファンディングのキックオフミーティング開催
クラウドファンディング開始に向けてWEBサイトの制作・ペルソナ設定
- 10月30日 第4回高校生実行委員会
 - ・スローガンの最終決定「興味の種から花束を」
 - ・フライヤー・メインビジュアルの提案 → フライヤーの制作へ
 - ・プログラムで取り扱うテーマの最終決定
- テーマ：難民、貧困と食事、貧困とソーシャルビジネス、LGBTQ+



- 11月13日 第5回高校生実行委員会
 - ・運営ボランティア高校生の募集開始
 - ・プログラム企画の決定
 - ・講師選び、メール等で依頼連絡
 - ・ワークショップの準備 など
- クラウドファンディング開始
- フライヤー・ポスターの完成、広報開始
- 2022年特設サイト公開・申込開始

Nov



Dec

- プログラム実施にむけて最終調整
 - ・講師との打ち合わせ
 - ・当日のスライド制作
 - ・プログラム中に放映する動画の制作
 - ・各プログラム特設サイトへの告知を掲載
 - ・当日スライド作成
- 当日ボランティア高校生の募集開始
- 12月17日 リハーサル
- 12月17日 実行委員・運営委員 全体会議



12月18日 ワンフェスユース2022開催当日



Jan



- ワンフェスユースの振り返り会 (1月15日)
 - ・これまでの活動やイベント当日について振り返り
 - ・今後の活動に向けて
- ワンフェスユース2022報告書の作成



高校生実行委員企画プログラム

ワンフェスユース2022で高校生実行委員が企画したプログラムを紹介します。

開会式

ワンフェスユース2022の始まりとして興味の種を撒くべく、「もったいない」をキーワードに、身近なところで起きている社会問題を取り上げました。また、高校生実行委員長の2人がワンフェスユース2022への思いを語り、会場全体が熱気を帯びる良いスタートとなりました。

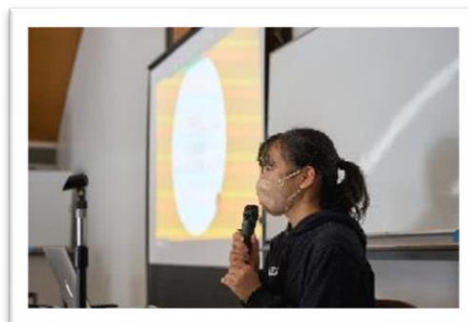
【時間】9:30 ~ 10:00

【会場】10階101教室 + オンライン会場

【参加人数】71名

参加者の声

クイズとかもあって、とても楽しい雰囲気でした。想像以上にクイズが難しくて驚いたけど、新しくいろんなことを知れました。司会の方の話もとてもおもしろかったです。



【衝撃】私たちが知った日本の難民受け入れの事実

1人の高校生実行委員が持っていた難民問題への興味をきっかけに、問題について調べ、日本の難民受け入れについてたくさんの高校生に知って欲しい、という思いでプログラムを企画しました。

関西で難民支援に取り組まれているNGO、RAFIQ（在日難民との共生ネットワーク）の方をお招きして、日本の難民受け入れの現状についてお話いただき、日本の現状を知ったうえでひとりひとりに何ができるのか、参加した高校生と共に考えました。

【時間】10:15 ~ 11:15

【会場】10階101教室 + オンライン会場

【参加人数】102名

【講師】田中恵子さん

RAFIQ（在日難民との共生ネットワーク）



参加者の声

講義を通して、難民に対するイメージが変わりました。また、日本が先進国の中で難民に対する支援・保護がうまくできていないことを改めて実感しました。この問題を解決するのはとても難しいと思いますが、1人1人が声をあげるということが大切だと思いました。

「食べる」から世界を知ろう！～貧困で苦しむ人々の食事とは～

このプログラムでは「食」という私たちにとって身近なことから貧困について考えました。世界には十分に食事をとることができず、飢餓で命を落とす人が数多くいます。世界の深刻な問題を知れば知るほど、私たちにもできることがたくさんあり、貧困問題は私たちの生活とつながっているということを実感するプログラムでした。

【時間】13:00 ～ 14:00

【会場】10階102+103+ 104教室

【参加人数】59名



参加者の声

・食べ物カードを使うなどして、貧困問題を身近に考えることができました。また、みんなで考えを深めながら積極的に自分も意見を伝えることができたので、すごく良い時間となりました。

・日本にも、貧困な人がたくさんいることを改めて知ることができ、自分も何か出来ることはないかを考えることができた。



他人事じゃない！核軍縮について知ろう！

核問題は他人事と捉えられがちですが、一度核戦争が起こり全ての核兵器が使用された場合、人類は滅亡しうると言われています。核軍縮に高い関心を持っている高校生実行委員が中心となって、世界の現状を踏まえて核兵器廃絶に向けて活動するKNOW NUKES TOKYOの高橋さんをお呼びし、核軍縮について考えました。

【時間】13:00 ～ 14:00

【会場】10階101教室

【参加人数】69名

【講師】高橋悠太さん KNOW NUKES TOKYO

参加者の声

・核について考えるときに、自分たちは核ミサイルの大きさや強さを想像しましたが、それは落とす側の発想であり核軍縮をするなら落とされる立場に立たなければならないと思いました。

・自分たちにできることが分かりやすかった。また今の世界の状況から、これからどのようにしていくのかも学ぶことができた。



貧困問題をビジネスで改善できるの？～ソーシャルビジネス～

世界には深刻な貧困に苦しんでいる人がいるものの、単に物資や寄付を送るだけでは問題の根本的な解決には繋がりません。そこで、様々な企業がビジネスとして発展途上国の生活を豊かにするための取り組みを行っています。このプログラムでは、ソーシャルビジネスに関心をもつ実行委員が自らの問題意識をもとに、貧困問題を解決することについてワークショップ型プログラムを行いました。

【時間】13:00 ～ 14:00

【会場】オンライン会場

【参加人数】41名



参加者の声

皆でビジネスのイメージや仕組みについて話し合いながら、ソーシャルビジネスというビジネスのあり方について学びました。説明がとても分かりやすく、同じ高校生がやっているとは思えませんでした！

【ブース設置】震災は遠い問題じゃない

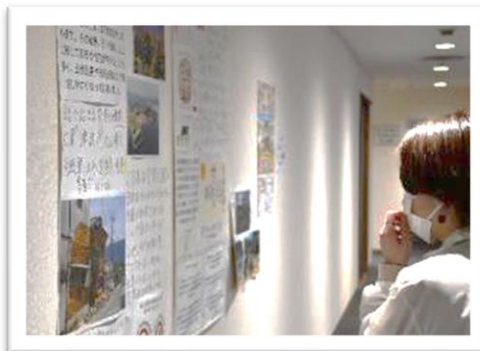
時に自然というのは私たち人間の予想の範疇を超える動きを見せ、日本にいる限り地震などの自然災害と共存しなければなりません。このプログラムでは、日本の震災についてポスターで紹介するとともに、会場に募金箱を設置し、たくさんの方に復興支援の一步を踏み出すきっかけづくりを行いました。集まったお金は、中央共同募金会（赤い羽根募金）へお送りし復興支援に役立てて頂きました。

【時間】13:00 ～ 14:00

【会場】10階101教室廊下

【募金総額】5,376円

当日ご寄付いただいた皆様
ありがとうございました。



▲ポスター掲示の様子



▲手作りのハート型募金箱

学校でSOGIやLGBTQ+について考える機会をつくりませんか (ユース提言プログラム)

近年、LGBTQ+という言葉が話題にあがるが増えましたが、現在でも偏見や差別、社会構造の課題は残っています。そこで、自分たちが当事者ではない課題と向き合いながらどう提言をしていくのかを話し合った動画を流し、参加者の皆さんにも考えてもらう機会を作りました。

【時間】15:30 ~ 16:30

【会場】10階102+103+104教室
+ オンライン会場

【参加人数】75名

【講師】あかたちかこさん



参加者の声

性的マイノリティであることを理由で当たり前の権利を得られていない人がいるということや、「性」の在り方は、グラデーションで、顔が違いうようにそれぞれの人で異なるということを知った。「性も個性の一つ」を理解することから「自分らしく生きられる」社会づくりが始まるという話が印象的だった。

閉会式

「高校生のためのSDGsアクションプランコンテスト」の表彰や、高校生実行委員長の2人からの挨拶を行いました。また抽選企画として、Future Code BYCSさんが手がけるハンドクリームが5名に贈呈されました。ワンフェスユース2022の各プログラムの参加者の方々が一堂に会し、1日を締めくくりました。

【時間】16:40 ~ 17:00

【会場】10階101教室 + オンライン会場

【参加人数】131名



参加者の声

・プレゼント企画など、楽しい閉会式でした。
実行委員の方たちの言葉もすごく残りました。

・このような会に参加するのは今回が初めてでしたが、最初から最後までずっと学びであふれた大満足な1日となりました。

高校生のためのSDGsアクションプランコンテスト

国際協力・SDGs・多文化共生の視点にもとづいた地域独自の課題に対して、具体的に行動する高校生のアクションを応援するプログラム。ワンフェスユース2022当日は、1次審査を勝ち抜き、ブラッシュアップ発表会を経てアイデアを練り上げた7チームが、高校生独自の視点で見つけた社会課題の解決のためのアイデアをコンテスト形式で発表しました。

【時間】11:25～12:50

【場所】10階102+103+104教室 + オンライン会場

【参加人数】86名

【審査員】石崎雄一郎（ウータン・森と生活を考える会）、田中十紀恵（特定非営利活動法人気候ネットワーク）、田中めぐみ（SDGsアクションプランコンテストコーディネーター）

参加チーム（高校）	プラン名
コネクターズ（関西外語専門学校）	地域と学校の交流を「英語」を通して創りたい
こどもまもーUNIONS（立命館宇治高等学校）	TR-RU君
貧困を救い隊（立命館宇治高等学校）	私たちなりの子供食堂
New Planet（立命館宇治高等学校）	請願書提出
Team Takacure（大阪府立高石高等学校）	見えない災害を見える化しよう
ななささ（神戸市立葺合高等学校）	With Assistance Dog
Yellow Flowers（京都府立嵯峨野高等学校）	募なっちゃんプロジェクト



ユースのための 国際交流×オンラインスタディツアー報告会

海外のユースと交流しながら、SDGsのテーマに沿って私達が直面する社会課題について学ぶ「ユースのための国際交流×オンラインスタディツアー」の報告会を実施しました。全5回、各地を巡ってきたスタディツアーのダイジェスト動画を視聴し、このプログラムに参加した高校生もツアーの様子を体験することができました。また、関西NGO協議会インターン4名によるQ&A企画では、会場の参加者から沢山の質問をいただき、スタディツアーを通じて世界の状況や問題について互いに学ぶ機会になりました。

【時間】14:15～15:15

【会場】10階101教室 + オンライン会場

【参加人数】60名







Online Study Tours for Youth

参加者の声

・さまざまな国について知ることができ、それについて知る→行動のプロセスを体験できるスタディツアーはすごく価値あるものだなと思いました。難しい内容もあったけれど、それを考える力をつけていくことが必要だなと思いました。





NGO等企画プログラム

ユースによる実践を見据えたアドボカシーワークショップ

～社会に声を届けるということ

JYPS・関西NGO協議会共同企画

持続可能な社会にむけたジャパンユースプラットフォーム(JYPS)と関西NGO協議会の共同企画プログラムです。SDGsの目標年である2030年までの折り返し地点、そしてG7広島サミットの開催など、盛りだくさんな1年である2023年を迎えるにあたり、私たちユースの声を「アドボカシー」で社会に届けることについて、ワークショップ形式で学びました。



「性別思い込みあるある」を見て一緒に考えよう！

自分と他の人の心とからだを大切にするレッスン

ヒューライツ大阪企画

北川好美さんと太田陽子さんを講師に招き、動画「性別思い込みあるある」を見て一緒に考えるワークショップ行いました。「自分らしく生きていい」「みんなに合わせなくていい」「あなたはあなたのままでいい」。参加した高校生が、自分も相手も大切にすることを学ぶプログラムでした。

ユースアクション報告会

ワンフェスユース運営委員企画

神戸龍谷高校、立命館宇治高校、兵庫県立兵庫高校、大阪府立高石高校より、各校での高校生の取り組みについての発表が行われました。また、CODE 海外災害援助市民センターの吉椿さんを講師に招き、それぞれの取り組みについてコメントをもらい、互いに学ぶ機会となりました。



暮らしの中の「水」について考えようーアジア各国の現状に触れて

アジア協会アジア友の会企画

日本で皆さんが普段何気なく使用している「水」。アジア諸国の「水」をめぐる状況にふれながら、その社会課題を知り、グループワークを通じて理解を深めるプログラムを行いました。

NGO活動紹介と相談ブース

高校生とNGOスタッフが気軽に交流できるコーナーも設置しました（参加団体は以下の通り。順不同）



▲外務省NGO相談員ブース

ワンフェスユース2022を終えた高校生実行委員会の声

委員長として、クラウドファンディングに挑戦しました。目標金額にだんだん近付いていったり、応援コメントをもらえたりすることはより頑張る糧になり、最後まで楽しんで取り組むことができました！

ワークショップ制作では、以前から興味を持っていたソーシャルビジネスに関するものを企画しました。人手不足の状態から、みんなと協働しながら何かを完成させられた事に凄くやりがいを感じました。特に共有タイムでは、参加者の高校生から逆に学んだことも多くて、「新しい価値観との遭遇」みたいな面もあったのではないかなと思います。

様々な学び、素敵なメンバー・運営委員の方との出会い、新しい気づきを得られて、自分が想像していた何倍もの良い経験になりました。改めて高校最後の年に参加できて良かったと思います！

あい

今年是对面とオンラインを合わせたハイブリット開催でした。私は講師をお招きし、「衝撃！私たちが知った日本の難民受け入れの事実」という講演会を実施しました。より意味のあるプログラムになるよう何度も話し合い、入念に準備していたため、参加者の方々が日本の課題に対して積極的に議論をする姿をみて、とても嬉しい気持ちになりました。このような貴重な機会をいただき、様々なサポートをして下さった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。

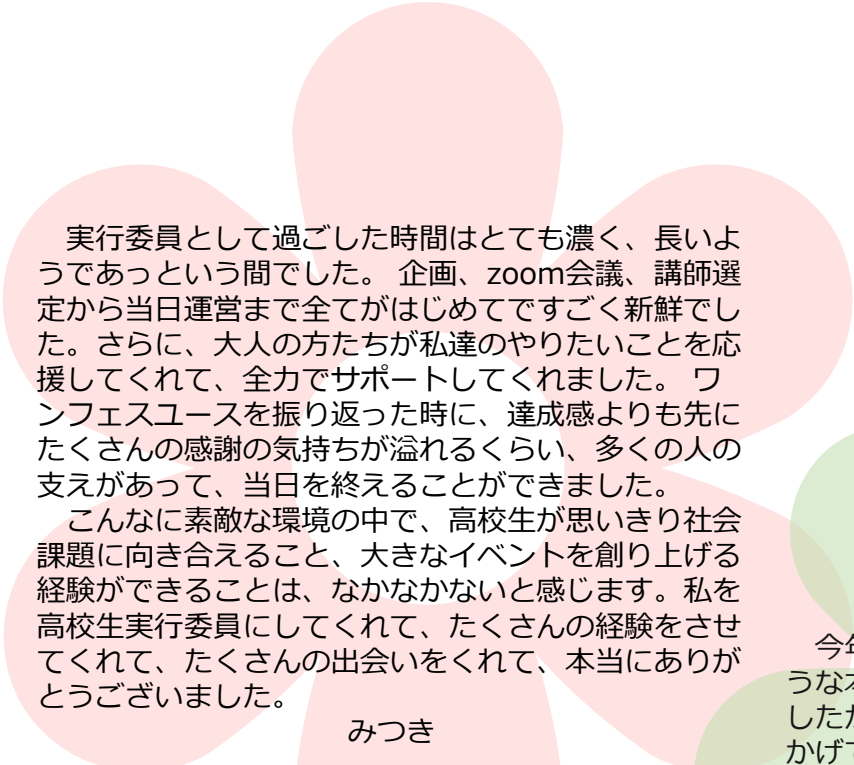
さわ

今回ワンフェスユースに参加させていただいて、得たものがたくさんありました。私自身、自分たちでイベントを企画するというような経験ははじめてでした。この活動を通して、参加者の方々を考えながら計画していくことができ、コミュニケーション能力が身につきました。私は来年から大学生です。今回学んだことを自分なりに活かしていきたいと思っています。

あやさ

今年の実行委員の数が例年よりも少なく、しかも各々がしたいことがかなりばらばらだったので不安が多くありました。当日までにはハプニングもあり、イベントを形にすることができるのか、心配に思いながら準備を進めていました。しかし、ワンフェスユースを企画、運営するなかで、実行委員にならなければ絶対に関わることはできなかった方々と関わることができ、素晴らしい経験を積むことができました。今年は3年ぶりに対面参加があり、プログラムを楽しんでくれる高校生の様子を見ることもできてとても嬉しかったです。次の高校生実行委員のみなさんも、楽しみながら活動してください！！

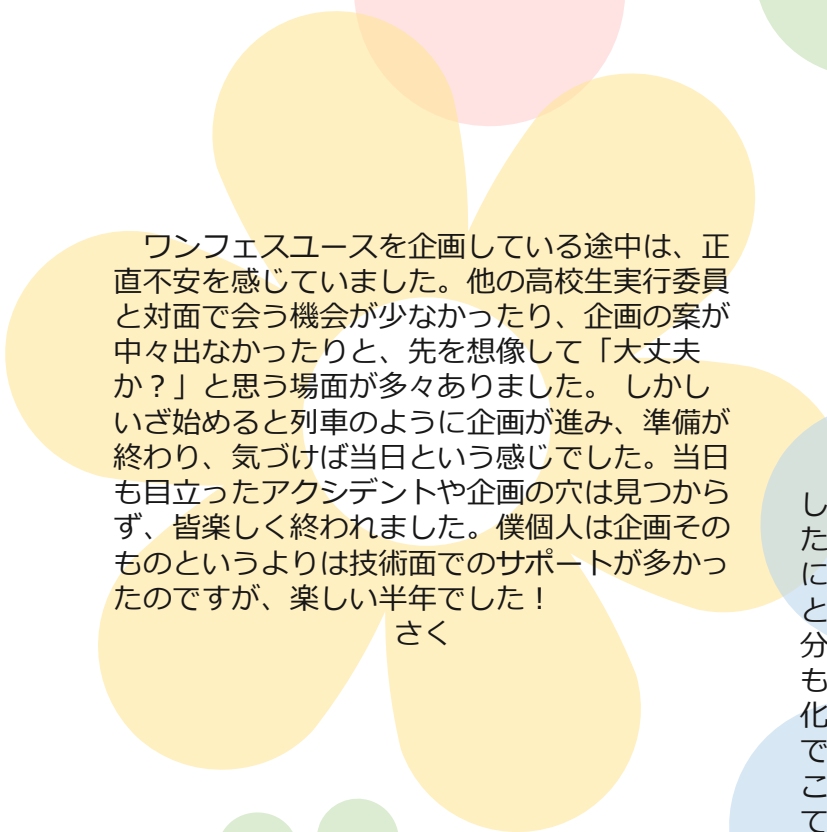
ひまり



実行委員として過ごした時間はとても濃く、長いようであつという間でした。企画、zoom会議、講師選定から当日運営まで全てがはじめてですごく新鮮でした。さらに、大人の方たちが私達のやりたいことを応援してくれて、全力でサポートしてくれました。ワンフェスユースを振り返った時に、達成感よりも先にたくさんの感謝の気持ちが溢れるくらい、多くの人の支えがあって、当日を終えることができました。

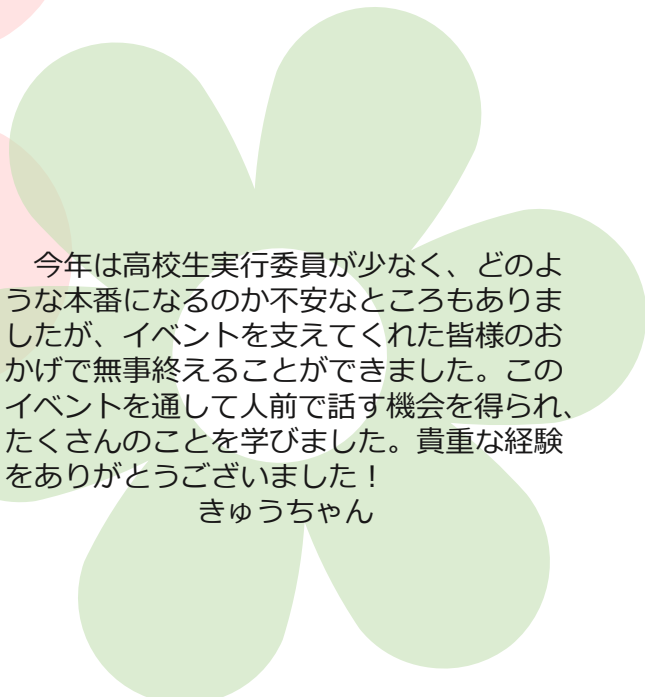
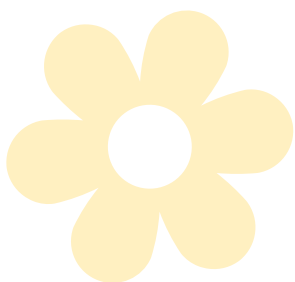
こんなに素敵な環境の中で、高校生が思いきり社会課題に向き合えること、大きなイベントを創り上げる経験ができることは、なかなかないと感じます。私を高校生実行委員にしてくれて、たくさんの経験をさせてくれて、たくさんの出会いをくれて、本当にありがとうございました。

みつき



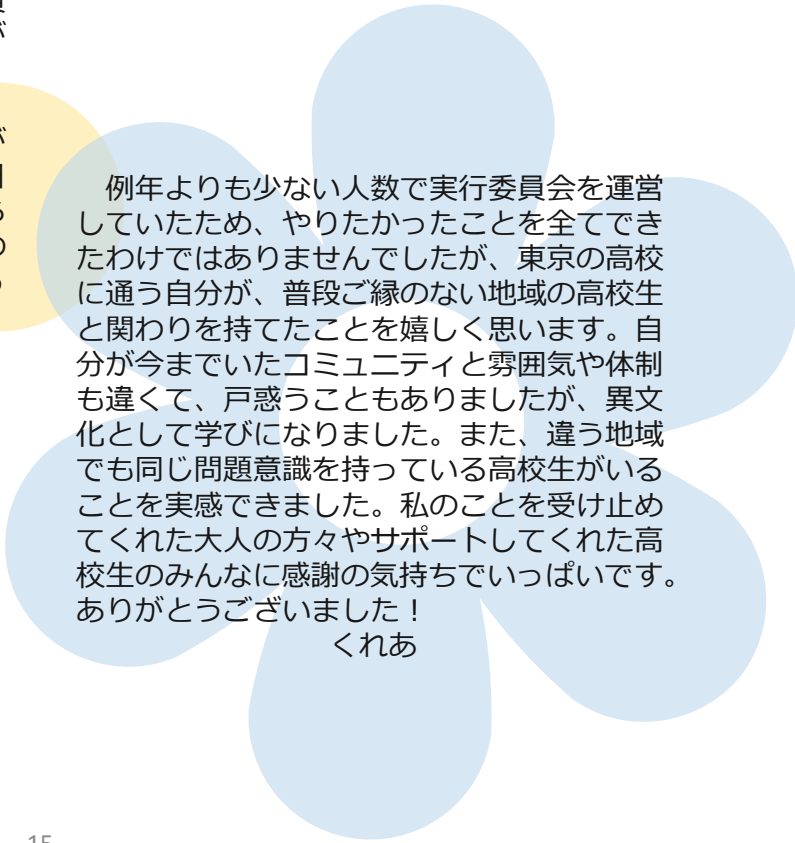
ワンフェスユースを企画している途中は、正直不安を感じていました。他の高校生実行委員と対面で会う機会が少なかったり、企画の案が中々出なかったりと、先を想像して「大丈夫か？」と思う場面が多々ありました。しかしいざ始めると列車のように企画が進み、準備が終わり、気づけば当日という感じでした。当日も目立ったアクシデントや企画の穴は見つからず、皆楽しく終われました。僕個人は企画そのものというよりは技術面でのサポートが多かったのですが、楽しい半年でした！

さく



今年は高校生実行委員が少なく、どのような本番になるのか不安なところもありましたが、イベントを支えてくれた皆様のおかげで無事終えることができました。このイベントを通して人前で話す機会を得られ、たくさんのことを学びました。貴重な経験をありがとうございました！

きゅうちゃん



例年よりも少ない人数で実行委員会を運営していたため、やりたかったことを全てできたわけではありませんでした。東京の高校に通う自分が、普段ご縁のない地域の高校生と関わりを持てたことを嬉しく思います。自分が今までいたコミュニティと雰囲気や体制も違って、戸惑うこともありましたが、異文化として学びになりました。また、違う地域でも同じ問題意識を持っている高校生がいることを実感できました。私のことを受け止めてくれた大人の方々やサポートしてくれた高校生のみんなに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

くれあ



参加者の声

4つのプログラムに参加しました。やっぱりむずかしいお話も多かったけど、その分自分の力になったし、「もっと知りたい!!」と思うこともありました。今日のワンフェスユースに参加して、本当に良かったです。これからの探究活動にもつなげていきたいです。私も高校生なので、実行委員の方々、ボランティアの方々が積極的に行動していってほしいのを見て感動しました。関係者のみなさま、このようなイベントを開いて下さりありがとうございました。

私はこのワンフェスユースを通して様々な問題について考え直すことができました。中には新しく知ったこともあって、知識を深めることができました。私は4つのプログラムを受けましたが、どれも楽しく学ぶことができました。他校の方々と交流する機会はありませんでしたので、とてもいい機会になりました。このような場を設けてくださった方々、何より、実行委員の方々に感謝を伝えたいです。

同世代の高校生が主となって行動していたところに憧れを抱いた。すごい。自分もこんな高校生になれたらいいなと思った。価値観の違う者同士で話し合うからこそ新たな発見や、これから活かされるポイントを見つけ出せたような気がした。もっと他校の高校生と仲良くなりたかった。

身近に感じられないテーマに関しても、私たちにできることなどを提示してくださって、問題に対して解決しようという姿勢がとても良かった。高校生がやっているとは思えないほどクオリティが高くてびっくりした。

私はこのような分野についてまったく知らず、ついていけないかな、と少し不安だったのですが、どれもわかりやすく、新しい知識を得ることができました。



当日ボランティア

ワンフェスユース2022では35名の高校生が当日のイベント運営をサポートしてくれました。

ボランティア活動内容

- ・受付・資料配布・誘導
- ・プログラムの参加レポート
- ・装飾の手伝い、片付け など

3プログラム以上参加し、感想フォームを送った方にはボランティア証明書を発行しました。

<参加した高校生からの声>

初めてのボランティアへの参加で分からないことも多かったのですが、良い経験になったと思います。初めて会う方とお話したり、案内のために自分から声をかけるのは緊張しました。

ボランティアに参加したことで助け合いの大事さがよく分かったと思う。来年の参加も考えたい。

受付と誘導を行いました。最初は挨拶もできないほどでしたが、だんだん自分から率先して話しかけることができました。また機会があればボランティアに参加したいと思いました。



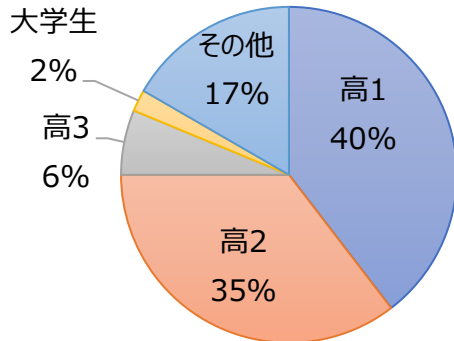
▲プログラム参加レポートを記入する様子



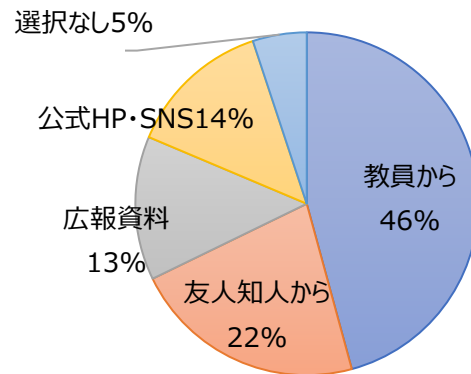
参加者アンケート結果

ワンフェスユース2022では参加者の皆様にアンケートを実施し、48名にご回答いただきました。

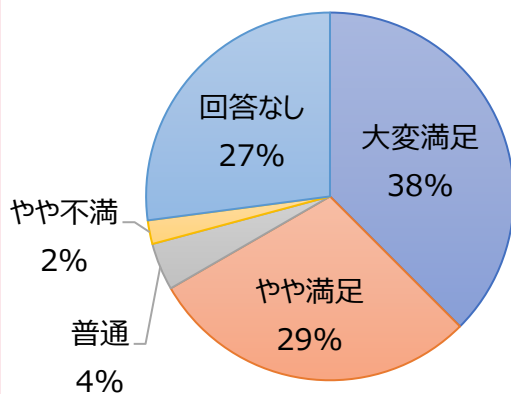
参加者内訳



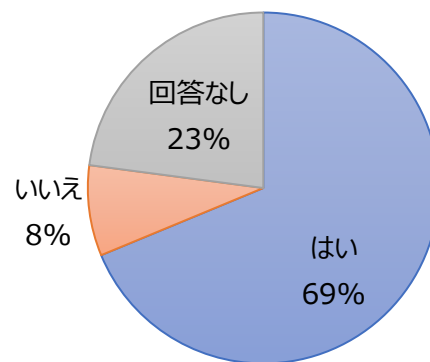
参加のきっかけ



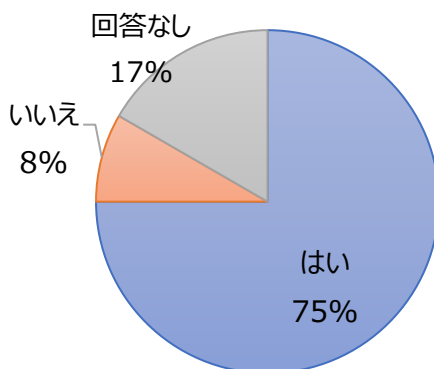
イベント全体の満足度



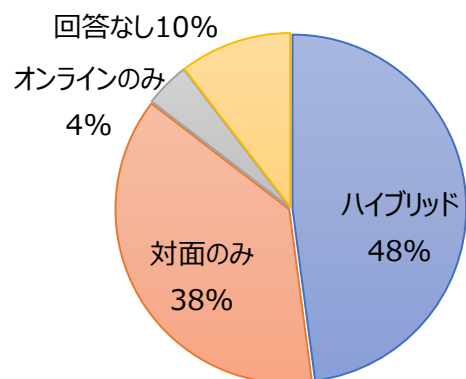
来年も参加したいですか



友人知人へ勧めたいですか



次年度の開催形式の希望



クラウドファンディング

高校生実行委員が主体となってクラウドファンディングに挑戦し、目標を超える金額の支援が集まりました！

コングラント株式会社のサポートのもと、高校生と大学生インターンが打合せを重ね、10月から準備を始めました。ペルソナ設定から、サイト制作、SNS広報、リターン作成までを、約4か月にわたって着実に進めました。特に、クラウドファンディング開始直前や、募集開始をしている期間は、高校生実行委員が一丸となって広報活動に取り組み、皆で寄付の進捗を喜び合いました。

ワンフェスユースの開催費を集めることに高校生も参加することで、自分たちの周りにはいる高校生以外の方々にも思い届けられると同時に、ワンフェスユースをより「自分達のイベント」として再認識することができました。

最終的に11月中旬からイベント当日までの約1か月間で、合計308,000円のご寄付が集まり、300,000円の目標を達成することができました。ご協力いただき誠にありがとうございました。



▲クラウドファンディングサイト



▲返礼品イメージ

〈クラウドファンディングへご支援いただいたみなさま（敬称略）〉

【支援者数】48名 【支援総額】308,000円（掲載を許可いただいた方のお名前のみ掲載しております）

相澤順也、熱田典子、石崎雄一郎、石丸汐見、越前屋Nicole、大前吉史、勝裕遼、窪田勉、熊亮太郎、栗田佳典、小西響、小林幸子、小林直樹、小吹岳志、坂西卓郎、佐野光平、下園力良、菅野諒子、杉本恭子、高橋一、高橋美和子、田尻忠邦、恒本茉奈実、仲井友佳子、中司光紀、西山良作、濱上達也、林田雅至、東川貴子、福井妙恵、藤井裕子、前田真理子、三輪敦子、安里佳世子、山岸周平、吉田幸子、吉椿雅道

ご協賛いただいた皆様



日本労働組合総連合会大阪府連合会（連合大阪）
株式会社オルタナティブツアー



運営について

ワン・ワールド・フェスティバル for Youth 2022は、「子どもの権利条約」に基づいたイベント運営を行っています。

【ワンフェスユース2022高校生実行委員会】

①8/7②8/21③9/18④10/30⑤11/13⑥12/17⑦1/15

委員長：あい、くれあ メンバー：あやさ、きゅうちゃん、くれあ、さく、さわ、ひまり、みつき

【運営ボランティア高校生】

かれん、こうたろう、すみれ、ちかこ、ななみ、まき、まな、みかん、れい

【コーディネーター】田中めぐみ

【ワンフェスユース2022運営委員会】

①6/17②7/29③9/9④11/11⑤12/2⑥12/17⑦2/10

委員長：窪田勉（兵庫県立兵庫高等学校）、副委員長：栗田佳典（関西NGO協議会）、鈴木千花（Japan Youth Platform for Sustainability）、相談役：林田雅至（大阪大学名誉教授）、山田正人、所属委員：大阪YMCA国際専門学校、兵庫県立兵庫高等学校、神戸龍谷中学高等学校、大阪府立高石高等学校、立命館宇治中学校・高等学校、公益社団法人アジア協会アジア友の会、公益財団法人大阪YMCA、公益財団法人PHD協会、特定非営利活動法人Wake Up Japan、朝日新聞社、ワンフェスユースOV会*、特定非営利活動法人関西NGO協議会

*ワンフェスユースOV会：元高校生実行委員会メンバーが、OV (Old Volunteer) として組織。



資料



◀ワンフェスユース2022ポスター



▲ワンフェスユース2022特設サイトメインビジュアル



▲ワンフェスユース2022パンフレット

特定非営利活動法人 関西NGO協議会／
Kansai NGO Council
〒530－0013 大阪市北区茶屋町2－30 4階
TEL 06－6377－5144 FAX 06－6377－5148
E-mail: knc@kansaingo.net
URL: <http://www.kansaingo.net>